



アストンマーティン 新型 Vantage GT3 Heart of Racing が FIA WEC にて初優勝

- 新型アストンマーティン Vantage GT3 が WEC にて初の LMGT3 クラス優勝
- Heart of Racing、母国にてポールポジションを獲得し、最速ラップで優勝
- オースティンで 10 回目の WEC 優勝を記録したアストンマーティン、COTA でのサクセスストーリーが続く
- COTA 優勝は 2012 年 WEC 初開催からアストンマーティン通算 53 回目のクラス優勝
- Heart of Racing、WEC COTA 戦で優勝を果たした初の北米チームに



2024 年 9 月 1 日、オースティン（米国）：

9 月 1 日（日曜日）にサーキット・オブ・ジ・アメリカズ（COTA）で開催されたローンスタール・マンでアストンマーティンの新型 Vantage GT3 が FIA 世界耐久選手権（WEC）初勝利を果たし、パートナーチーム Heart of Racing が鮮やかな勝利を収めました。

Heart of Racing の勝利は圧倒的でした。ドライバーのイアン・ジェームス（英国）、アレックス・リベラス（スペイン）、ダニエル・マンチネッリ（イタリア）はクラスのポールポジションからスタートし、6時間レースの全164周中160周で先頭を走っていました。リベラスはレースのLMGT3最速ラップも記録しています。

北米在住でCOTAをよく知るチーム代表のジェームスはスタートから先頭に飛び出し、後半はライバルのランボルギーニからのプレッシャーに耐えながら、非の打ちどころのないダブルスティントを走り切りました。次に、イタリア人ドライバーとしてアストンマーティンでWEC初優勝を果たしたマンチネッリが、ライバルたちの苦戦をよそにリードを広げます。リベラスに交代する頃には、Heart of Racingの後を追うライバルとの差は20秒以上に広がっていました。先週末、バージニア・インターナショナル・レースウェイで開催されたIMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権の表彰台をVantage GT3で獲得したばかりのリベラスも、ダブルスティントを完璧にこなして帰還しました。

アストンマーティンの耐久モータースポーツ責任者のアダム・カーターは、次のように述べています。「新型アストンマーティン Vantage GT3 と Heart of Racing チームにとって格別な勝利でした。イアン・ジェームス、アレックス・リベラス、ダニエル・マンチネッリ、そしてチーム全体に祝福の言葉を送ります。Vantage GT3 とチームは、ル・マン 24 時間レースでの健闘とサンパウロ 6 時間レースの激戦で勝ち取った 2 位をはじめ、WEC で優勝できる資質を感じさせていましたが、今回の圧勝は、スパ 24 時間レース優勝と IMSA ウェザーテック・スポーツカー選手権および日本の SUPER GT シリーズのクラス優勝とともに、Vantage がトップレベルで競う 1 年目にして極めて大きなポテンシャルを持つことを改めて強く印象付けてくれました」

アストンマーティンの COTA での優勝は、2012 年に同サーキットが WEC の開催地となって以来、今回で全クラス合わせて 10 回目となります。また、シリーズ開始から今までに勝ち取った優勝数は 53 回と、マニュファクチャラーとしての通算優勝回数では 3 位に入ります。アストンマーティンのクルーが表彰台に立つのは 123 回目ですが、北米のチームが COTA クラス優勝を果たすのは初めてです。

Heart of Racing にとって、今回の勝利はここ最近の好成績の延長線上にありました。IMSA の GTD Pro および GTD クラスにも参戦している Heart of Racing は、ワトキンス・グレン（米国）での優勝以外にも 3 つの表彰台を獲得し、GTD Pro カテゴリーの 2 位に入っています。GTD でもモSPORT（カナダ）戦を制し、先週末はバージニア・インターナショナル・レースウェイを 2 位でフィニッシュしました。SRO のピレリ GT4 アメリカ選手権でも勝利を収めるなど、Heart of Racing は今年アストンマーティンで出場したすべての舞台で勝利を挙げています。

Heart of Racing は LMGT3 のスタンディング 4 位をキープしており、今シーズンはここまで 81 ポイントを稼いだところで、残りは日本とバーレーンの 2 レースとなります。まだ獲得可能なポイント数が 65 ポイントある一方、2 位との差はわずか 9 ポイントです。

「最高の気分です」とイアン・ジェームスは語りました。「アメリカで、しかも世界戦の舞台で、WEC 初優勝を挙げたのは、本当に素晴らしいことです。チーム全員、そしてアストンマーティン・レーシングの皆様の尽力に感謝しています。今日は全員が自分の最大限を発揮できたうえ、結果もそれを証明しています。WEC のレースに出場すること自体が一つの夢ですが、そのレースに勝つというのはさらにその上のレベルの話です。今日のことは長く記憶に残るでしょう。」

アストンマーティンの新型 Vantage GT3 は大西洋の対岸、ベルギーのスパ・フランコルシャンでも好成績を収めました。パートナーチームの Walkenhorst Motorsport は名誉ある ADAC GT マスターズで複数の表彰台を獲得しています。デニス・ブラトフ（ドイツ）とマイク・ダービット・オルトマン（ドイツ）は第 1 レースで総合 3 位、チームメイトのチャンドラー・ハル（米国）とニコ・ハントケ（ドイツ）は Pro-Am クラス優勝を果たしました。ブラトフとオルトマンはさらに 9 月 1 日の第 2 レースでシルバークラス 3 位も獲得しました。

残りが 2 ラウンドとなった WEC は、次回、日本へと舞台を移し、9 月 13 日～15 日に富士スピードウェイにて富士 6 時間耐久レースを開催します。

こちらのプレスリリースに関する素材は、下記よりダウンロード可能です。

<https://we.tl/t-UCn3lcjIKZ>

アストンマーティン・ラグondaについて

アストンマーティンは、世界でもっとも熱望されるウルトラ・ラグジュアリー・ブリティッシュ・ブランドとなることを目指し、人々を魅了してやまないハイパフォーマンス・カーを作っています。

ライオネル・マーティンとロバート・バンフォードによって1913年に設立されたアストンマーティンは、スタイル、ラグジュアリー、パフォーマンス、エクスクルーシブネスを象徴するグローバル・ブランドとして知られています。アストンマーティンは、最先端のテクノロジー、卓越したクラフトマンシップ、美しいスタイルを融合させ、Vantage、DB12、DBS、DBXに加え、同社初のハイパーカーであるValkyrieなど、高い評価を得ている一連のラグジュアリー・モデルを生み出しています。また、Racing. Green.サステナビリティ戦略に沿って、アストンマーティンは2025年から2030年にかけて、PHEVとBEVを含むブレンドドライブトレインアプローチによる内燃エンジンの代替システムの開発にも取り組んでおり、電気自動車のスポーツカーとSUVのラインナップを持つという明確なプランを描いています。

英国のゲイドンを拠点とするアストンマーティン・ラゴндаは、ラグジュアリー・カーを設計、製造、輸出し、世界で50以上もの国で販売しています。スポーツカー・ラインナップはゲイドンで製造されており、ラグジュアリーSUVのDBXは、ウェールズのセント・アサンで製造されています。同社は、2030年までに製造施設をネットゼロにする目標を掲げています。

ラゴндаは1899年に設立され、1947年にアストンマーティンとともに故デビッド・ブラウン卿に買収され、現在は「Aston Martin Lagonda Global Holdings plc」としてロンドン証券取引所に上場しています。

2020年には、ローレンス・ストロールが同社のエグゼクティブ・チェアマンに就任し、未来の重要な分野に対して新たな投資を行うと同時に、アストンマーティン・アラムコ・フォーミュラ1®チームとともにモータースポーツの頂点へと復帰し、英国を象徴するブランドとして新たな時代へと乗り出しています。



<https://media.astonmartin.com/>

メディア問い合わせ先：

Aston Martin Lagonda
Head of Regional Marketing & Communications-Asia Pacific
有澤 久美子

kumiko.arisawa@astonmartin.com

Marketing & Communications Manager-Japan
松永 悠理

yuri.matsunaga@astonmartin.com

株式会社ブレインズ・カンパニー

加藤 七瀬：070-7611-6970 中井 美里：070-2238-5865

astonmartin-pr@pjbc.co.jp